

今日から
始める

認知症を予防・克服するために

認知症対策

言ってはいけないNGワード・してはいけないNG行動

今回は、前回ご紹介した認知症の人にしてはいけないことに関連して、具体的なNGワードとNG行動について解説します。

認知症の人と接するときは、その人に寄り添った柔軟な対応が必要になります。自尊心を傷付けたり、不安にさせたりするような発言や行動を避けることが大切です。

<言ってはいけないNGワード>

●「そんなはずはないでしょう」(否定)

本人が信じていることを頭ごなしに否定するような言葉は避けるようにしましょう。いったんは相手の言うことを受け入れ、寄り添った話し方を心がけましょう。

●「何をしているの」(叱責)

認知症の人が思いも寄らない行動をとった際、当初は優しく注意していた周囲の人も、それが聞き入れられないことにいら立ってしまい、どうしても叱ってしまうような言い回しになる場合もあることでしょう。しかし、強く叱責されると本人は驚いたり混乱したりしてしまいます。間違った行動を責めることなく、優しくアドバイスを行なうようにしましょう。

●「こんなこともできないの」(非難)

認知症が原因で、それまでできていたことが上手にできなくなってしまうという事実と直面すると、患者本人はもちろん、その家族もショックを受けてしまいます。その事実を受け入れられないことから、周囲の人が本人を非難するような発言をしてしまう場合もあります。まずは事実を受け入れ、できないことよりもできることに着目して、本人を励ますような言葉をかけることが大切です。

●「～しないと大変なことになる」(脅し)

本人が失敗してしまった際、子どもを脅して注意するような発言をして、言うことを聞かせようとするのは逆効果です。「今のうちになんとかしなければ」との思いから、厳しい言い方になることがありますが、そうではなく、患者に納得してもらったうえで行動を促すような発言を心がけましょう。

<してはいけないNG行動>

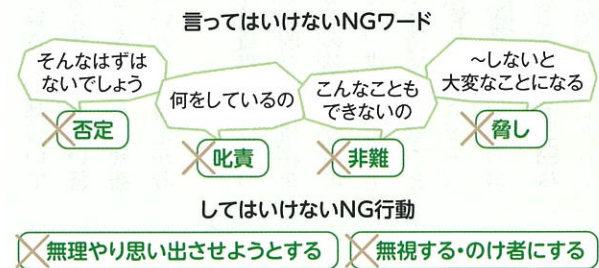
■無理やり思い出させようとする

大切な物の置き忘れや日時の記憶など、本人が忘れていていることについて、無理やり思い出させようとしても、本人は不安を感じるだけです。以前もご紹介したとおり、このような場合は、記憶を思い起こせるようなヒントを提示するなど、本人の「記憶の杖」になることが大切です。

■無視する・のけ者にする

前回も言及したとおり、認知症になっても、本人には豊富な人生経験に基づくプライドがあります。本人をのけ者にしてほかの人と会話をしたりすることのないよう、気を付けましょう。

言ってはいけないNGワード・してはいけないNG行動



言ってはいけないNGワード・してはいけないNG行動をしっかり理解して、認知症患者に寄り添った言動を心がけることが大切となる。



浦上 克哉 Urakami Katsuya

鳥取大学医学部教授、一般社団法人日本認知症予防学会代表理事、日本認知症予防学会専門医、公益社団法人日本老年精神医学会理事。認知症診断・予防の第一人者として、外来での診察と治療、予防、ケアなどを総合的に行なっている。また、講演会やメディアを通じて、認知症の予防と早期発見、克服などに関する実践的な啓発活動に取り組む。